

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	アメリカ・ワシントン州シアトル市
研修先	兵庫県ワシントン州事務所
プログラム実習期間	2013年8月12日～8月30日
学部/研究科・学年	人間発達環境学研究科 M1年

インターンシップ就業実習 報告書

私はこの夏、8月12日から8月30日までの約3週間、シアトルにある兵庫県ワシントン州事務所でのインターン生として、インターンシップを行いました。今年はワシントン州と兵庫県の姉妹都市提携から50周年という記念すべき年であり、インターンシップ内容としては主に、姉妹都市提携50周年記念行事に携わらせて頂きました。

はじめに、1週間目に行われた大きなイベントとしては、兵庫県知事やワシントン州上院議員なども参加された淡路人形浄瑠璃公演での案内係を勤めました。公演はACTシアターで行われ多くの人々に来場して頂きました。その際、会場前にブースを設置し、兵庫県のPRも行いました。私達は、淡路人形浄瑠璃が兵庫県のどの辺りから発祥したか、またそれに加えて兵庫県の良さをより多く知ってもらうために精一杯兵庫県の魅力を来場者に伝えました。

次に2週間目は、今回のインターンシップのメインイベントである姉妹提携50周年記念式典行事が始まりました。式典は、オリンピアにあるワシントン州議事堂にて行われ、私達は兵庫県からの高校生訪問団と共に、双方の知事が姉妹都市提携の調印を行った様子を拝見しました。高校生団は、兵庫県の各高校から選抜された約40人のメンバーで、みな志が高く、天真爛漫な生徒たちでした。その中で私達は、高校生のサポートや通訳業務を行いました。

また記念行事の一つであり、私達が一生懸命取り組んだ仕事の一つとして、兵庫県物産展があります。兵庫県物産展はワシントン州領事館において行われ、実際に神戸ビーフやそばめしなどの試食ブースが設置されました。物産展においての私達の仕事は、兵庫県の名産品をワシントン州の知事団の方々に紹介するパネルを作成したり、来場されるVIPの名札を作成したりしました。

記念行事関連の関西セミナーは、ワシントン州と兵庫県の観光、商業についてそれぞれがプレゼンテーションを行う昼食会でした。この関西セミナーはPia66において行われ、私達は来場されたVIPの方々の受付をし、席にご案内しました。実際にセミナーで、ワシントン州側コストコの社長や、関西の観光PRプレゼンテーションを拝見し、ワシントン州や関西について、見識を深めることができました。

兵庫県議会議員団の方々が私達が働く、兵庫県ワシントン州事務所を訪問された際には、議員団の方々の前で、事務所についてのプレゼンテーションを行いました。海外事務所の必要性が問われる中で、私達が事務所での体験談も話すことによって、議員団の方々に海外事務所に対して前向きな考え方を抱いていただきました。

また、ワシントン州議会と兵庫県議会がお互いの国の議会システムをより深く知り、姉妹都市関係を友好的にするための昼食会議における資料の翻訳業務も私達が行いました。

50周年記念行事の最後のイベントとして、英語落語家の桂三輝(桂サンシャイン)の落語の公演の準備を行いました。このイベントは私達の兵庫県ワシントン州事務所で行われ、イベント当日は

ビデオ撮影と、音響を担当しました。事務所のフリースペースを会場に作り変え、壇上を組み客席を用意したため、そこまで広いスペースではなかったものの、チケットは完売し、約 80 人の方々に来場して頂くことができました。

今回、姉妹都市 50 周年記念というこの貴重な経験を通して、海外という離れた立場から日本を見つめなおすことができた素晴らしいインターンシップ実習でした。

感想および意見

この夏、8 月 12 日から 8 月 30 日までの約 3 週間のシアトルでのインターンシップは、私にとって忘れられない素晴らしい体験でした。今年は、ワシントン州と兵庫県が姉妹都市提携を結んでから 50 周年という記念すべき貴重な年であり、インターンシップ内容としては主に、姉妹都市提携 50 周年記念行事に携わらせて頂くことができました。このような行事には普通、参加したくても簡単には参加できないのに、それに加えて運営する側として共に仕事をさせて頂き、姉妹都市提携 50 周年記念行事に大きく関わることができ、本当に自分にとって有意義な日々であったと感じています。

事務所に初日出勤するなり、記念事業の重要な役割を任せられました。事務所の方々もそれぞれに山積みの仕事があったため、私達は手探りでとにかく精一杯努めるほか仕方なく、初めの 1 週間は息をつく間もなく、本当にあっという間に過ぎていきました。任された仕事内容は、思いのほか責任重大で、少しプレッシャーを感じました。それぞれの行事に VIP の方々が入場する際に、受付に必要なネームタグの準備などは、不手際があると困るために慎重に行う必要があり、またワシントン州議会と兵庫県議会の姉妹都市友好関係を深めるために、お互いの国の議会制度について話し合う昼食会においては、その資料の双方を翻訳する業務を行い、とまどいながら事務所の方々のサポートのもと、何とか成し遂げることができました。

2 週間は仕事内容的には準備というより、それぞれのイベントを運営する業務になり、実際にイベントを運営する裏方としての仕事を行うことによって、今まで自分が知らなかった世界を知ることができた、貴重な 1 週間でした。オリンピックで行われた姉妹都市調印式典などは、やはり規模が大きく、日本とはスケールが違うな、と改めて感動しました。このような大きなイベントを行うには、実際おもてには見えなくても、裏で何千人という人々が様々な形で働き、協力し合って成り立っているものであることがよく分かりました。

3 週間は記念行事が終了し、ひと段落したために仕事内容も落ち着き、9 月にある秋祭りの準備や 50 周年記念行事の模様を伝えるパネルを作成するために、自分たちが 2 週間で行ってきた内容を振り返る作業を行い、2 週間という短い間にいかに多くのことを吸収し、充実した日々であったかを実感しました。

これまで仕事について述べてきましたが、シアトルでの私の生活を支えてくれたホームステイについても述べたいと思います。

ホストマザーとホストファザーは本当に優しく親切で、常に私を気遣いサポートしてくれました。ホストマザーとは毎日、その日一日あった出来事についてお互いに話をし、お気に入りのテレビ番組を一緒に見て過ごし、私にとってその時間はとても楽しいものでした。インターン業務が毎日忙しく、休日はあまりなかったのですが、数少ない休みを充実したものにしてくれようと、ビーチヘッドライブに出かけたり、アウトレットに買い物に行ったり、有名観光地であるマウントレニエ山に連れて

いってくれました。

ホストファザーは仕事が忙しく、家にいる時間はあまり多くはなかったのですが、料理上手で、家にいる時は朝食や夕食を作ってくれたり、仕事先まで車で送ってくれたりしました。

二人への感謝の気持ちを込めて私が作った天ぷらを、二人とも非常に気に入って、喜んで食べてくれて、本当に嬉しかったです。

一ヶ月間という非常に短い期間が、こんなにも充実して密度の濃いものとなったのも、ホストマザーとホストファザーの、暖かい家庭に受け入れてもらえたからだと思います。

シアトルでの、このような充実した貴重な経験を通して、仕事に対する姿勢、人と人とのつながりの大切さ、そして何より自分の国を愛する心を持つことの素晴らしさを学ぶことができました。この体験を忘れずに、また新たなことに挑戦し続けたいと思います。

